

# 八戸市GX・次世代エネルギービジョン2050

## 【概要版】

～ 新しいエネルギーでつくる、未来の八戸 ～

2026年3月

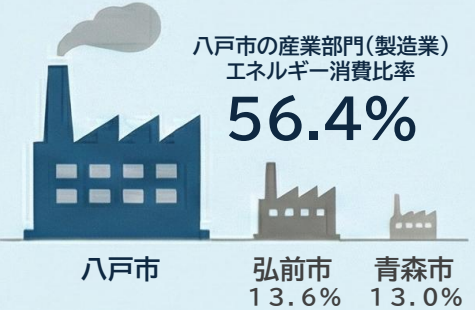
八戸市

# ■ ビジョンの全体構成

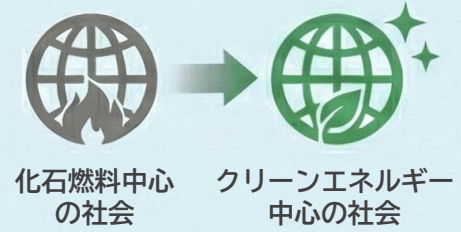
【現状分析】第1章／第2章  
産業都市としての現状・課題と外部環境の変化



## 第1章：地域社会の現状



## 第2章：日本社会の変化など



日本社会の構造的な変化

国によるGXの推進を受けて、先進地では様々な実証研究が進んでいる

苫小牧市  
CCS実証やアンモニアの活用

福島県  
水素・合成メタンの活用

【未来戦略】第3章／第4章  
八戸モデルの構築と将来展望

第3章：今後の方向性と可能性  
八戸市のポテンシャルを活かした八戸モデルプロジェクトの展開



メタネーション／水素、アンモニア拠点化／関連産業の創出

ビジョン実現に向けた長期ロードマップ



第4章：2050年頃の未来像

地域住民の豊かな暮らしを支える強靱な地域経済の形成  
GXによる地域企業の競争力強化



## ■ 策定の背景：産業都市として更なる成長に向けた機運醸成を図る

### これまでの歩み



- 八戸市は、昭和39年の新産業都市の指定を契機として、臨海部を中心に重厚長大企業が立地し、産業都市として歩みはじめた。
- その後も時代の変化にあわせてIT関連産業やエネルギー関連産業の誘致に取り組み、産業構造の転換を進めてきた結果、北東北を代表する産業都市となっている。

### 直面する課題



- 国では、2050年カーボンニュートラルの実現と経済成長の両立を目指し、グリーン・トランスフォーメーション（GX）を積極的に推進している。
- こうした中、八戸市の地域経済が将来にわたって持続的に発展していくためには、先進的な取組をいち早くキャッチアップし、次世代のクリーンエネルギーへの転換などのGX経済（脱炭素成長型経済）に適應するための取組が必要となっている。

### 策定の目的

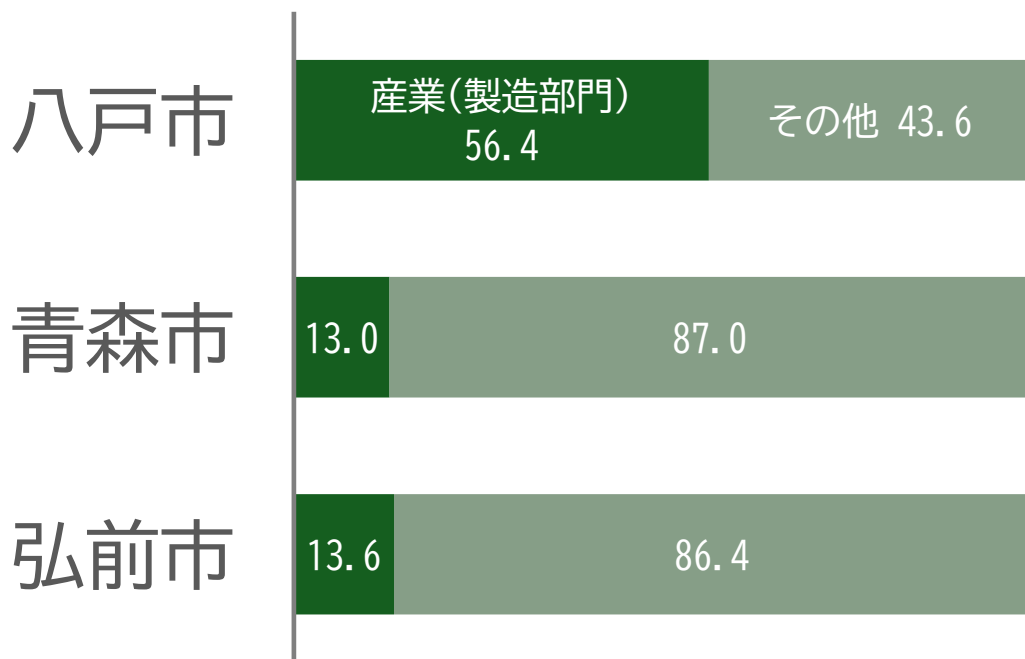


- 八戸地域がGXを推進し、カーボンニュートラルの実現と経済成長の両立を図るためには、その必要性を多くの関係者に理解してもらうことが重要となる。
- このようなことから、GX・次世代エネルギー導入に関する地域全体の機運醸成を図るためのファーストステップとして、本ビジョンを策定する。

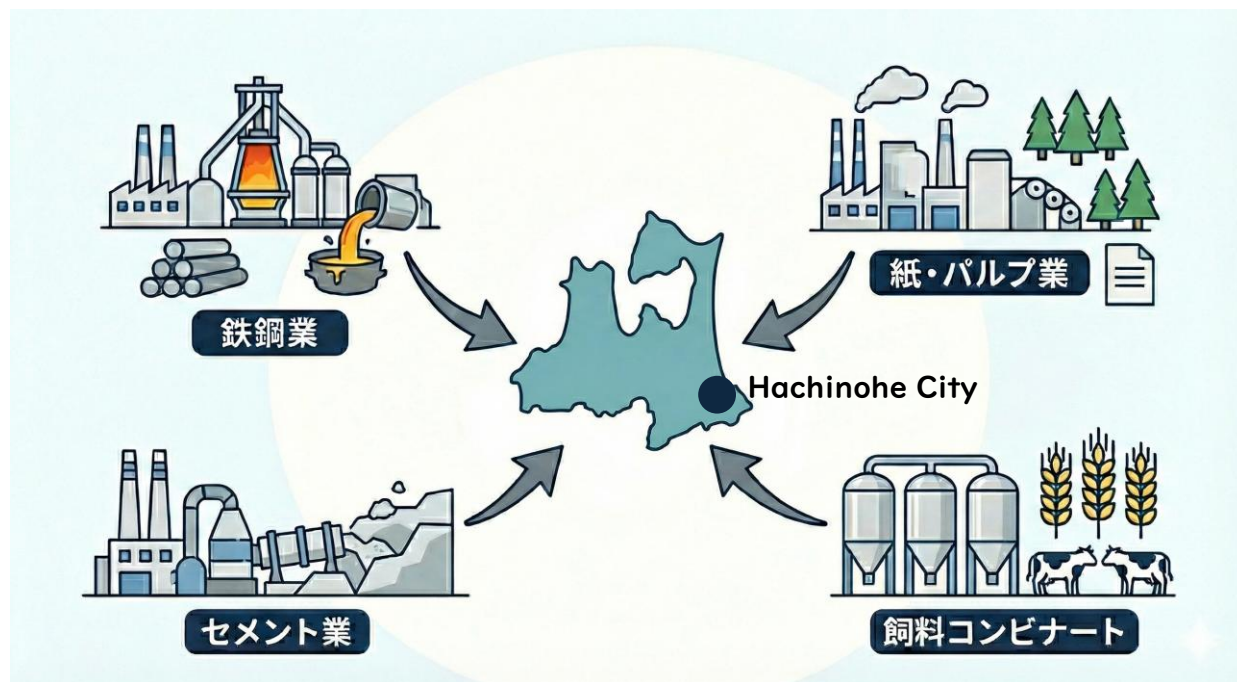
## ■ 第1章：地域社会の現状

- 八戸市は、昭和39年の新産業都市の指定を契機として臨海部を中心に重厚長大型企業の産業集積が進み、産業都市として歩み始めた。
- 現在では、鉄鋼業や紙・パルプ業、セメント業に加え、IT関連産業やエネルギー関連産業の立地も進んでいる。
- 当市は、県内他都市と比較しても産業部門のエネルギー消費が多い状況となっており、国が進めるGXの影響を受けやすい産業構造となっている。

エネルギー消費（部門別）比較



八戸市の産業構造



## 第2章：日本社会の変化と国・青森県の動向

- 世界的なカーボンニュートラルの潮流を受けて、国ではGXの推進による産業構造の転換を目指しており、産業部門における脱炭素化の推進は、気候変動対策だけではなく産業政策としての重要性も高まっている。
- 全国の先進地では、国が設置したグリーン・イノベーション基金やGX経済移行債等を活用した研究開発が行われている。
- 青森県でも地域エネルギー利活用によるしごとづくりの推進や、GX戦略地域の形成に向けた取組を進めている。

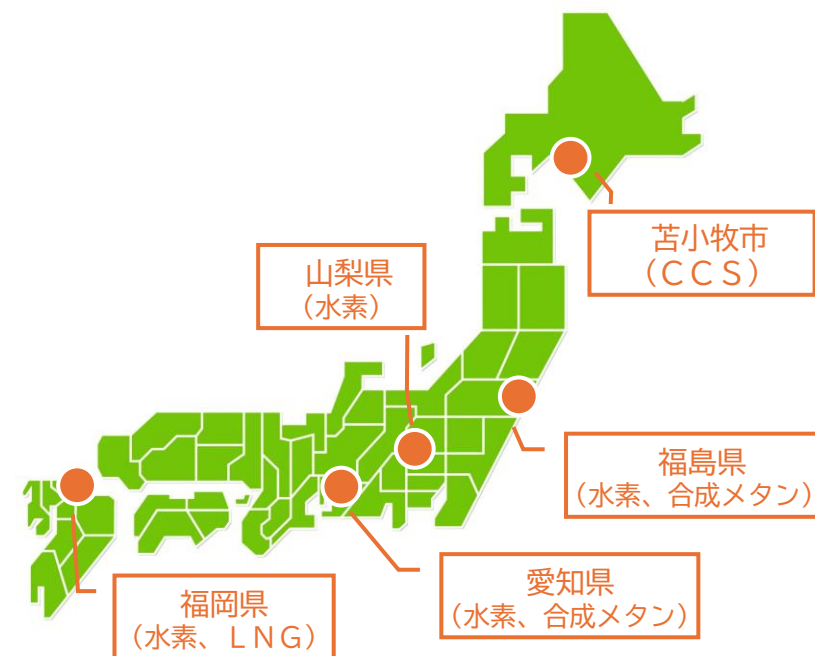
### 気候変動リスクの深刻化

- 気温上昇・猛暑日の増加
  - 100年間で1.44℃上昇
  - 熱中症リスクや生態系への影響
- 災害の激甚化・頻発化
  - 豪雨・豪雪、台風による被害の拡大
  - インフラや企業活動への脅威
- 海面上昇・沿岸部への影響
  - 高潮リストの増大
  - 港湾機能への懸念

### 国・青森県の動き

- (国)
  - GX推進法の整備
  - 水素社会推進法の整備
  - GX推進機構の設置
  - GX経済移行債による大規模投資
  - 成長志向型カーボンプライシング制度の開始 など
- (青森県)
  - 地域エネルギー利活用によるしごとづくりの推進
  - GX戦略地域の形成
  - フュージョンエネルギーの誘致表明 など

(参考) 先進地の紹介



## ■ 第3章：八戸市の今後の方向性と可能性

### 今後の方向性

- ➡ 本ビジョンで目指すべき「地域の未来像」を分かりやすく示し、関係者間における共通理解の醸成を図る。
- ➡ 先人たちが築き上げてきた産業インフラや、多様な産業集積といった地域特性を最大限に活用した「八戸モデル」を意識したプロジェクトを構築・展開する。

### 八戸市が持つ可能性

#### メタネーション

- 二酸化炭素と水素をもとに合成メタンを生成するメタネーション技術は、コストとなる二酸化炭素を燃料として資源化できる可能性があるため、地域経済の逆風を追い風に代える革新的な技術として社会実装されることが期待される。

#### エネルギーの拠点基地

- LNGから水素・アンモニア等へのエネルギー転換が予想される中、ポートアイランドの拡張用地において水素・アンモニア等の受入・供給拠点の整備が期待される。
- アンモニアについては、北海道のエネルギー拠点である苫小牧市と連携したサプライチェーンの参画が期待される。

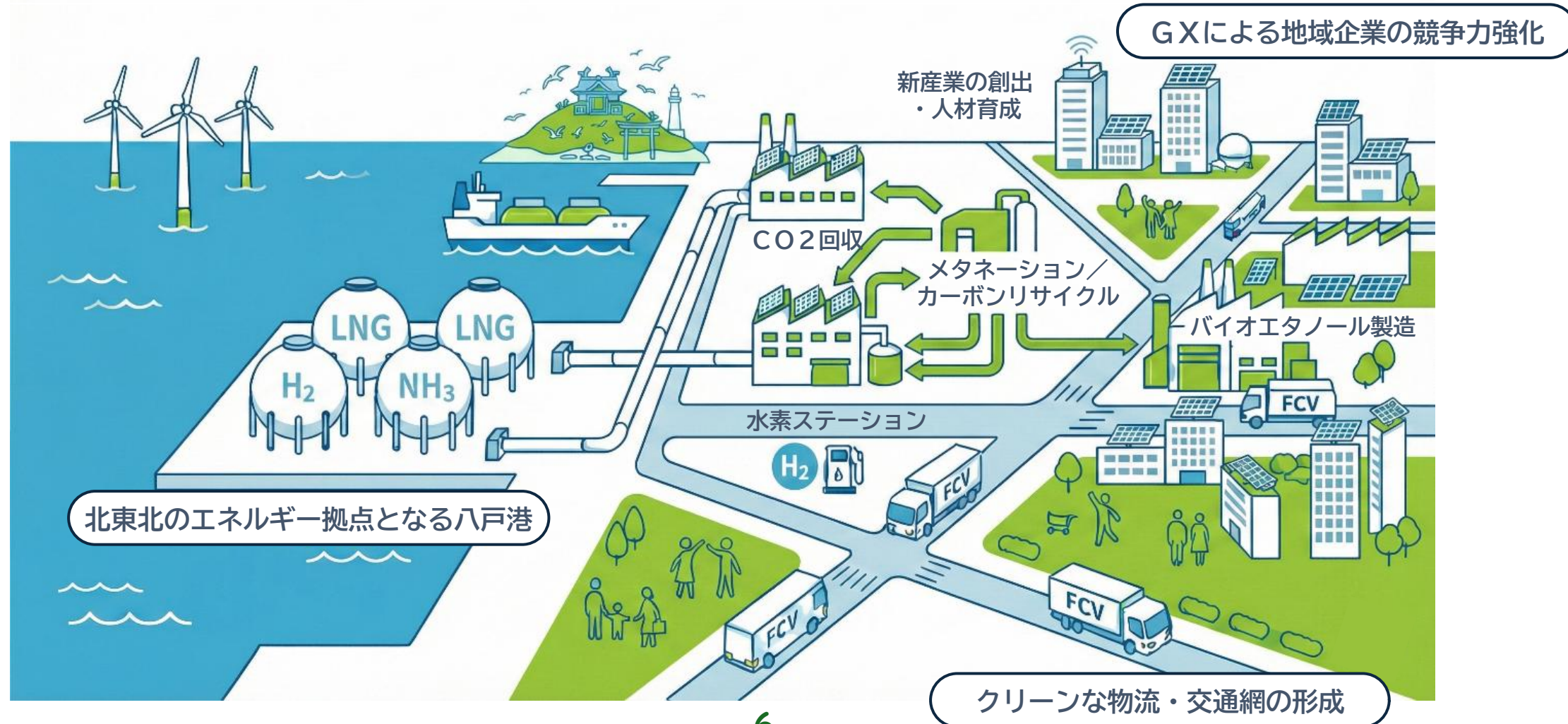
#### GX・次世代エネルギー 関連産業の創出

- 今後、県内ではフュージョンエネルギーの原型炉の誘致や、エネルギーを大量に消費するデータセンターの誘致などが進む可能性があるため、GXや次世代エネルギーの関連産業の発展が見込まれる。
- 長期的な展望のもと、関係機関と連携することでGX・次世代エネルギー関連産業の立地促進が期待される。

# 第4章：地域の未来像

## 2050年頃の八戸市

次世代エネルギーの供給拠点化や、GXを契機とした地域企業の高度化、カーボンリサイクル技術などを活用した新産業の創出、燃料電池トラックなどによる環境にやさしい物流網の形成等が進み、生産・流通の両面から地域内での経済活動が活発になっており、**地域住民の豊かな暮らしを支える強い地域経済が形成**されている。

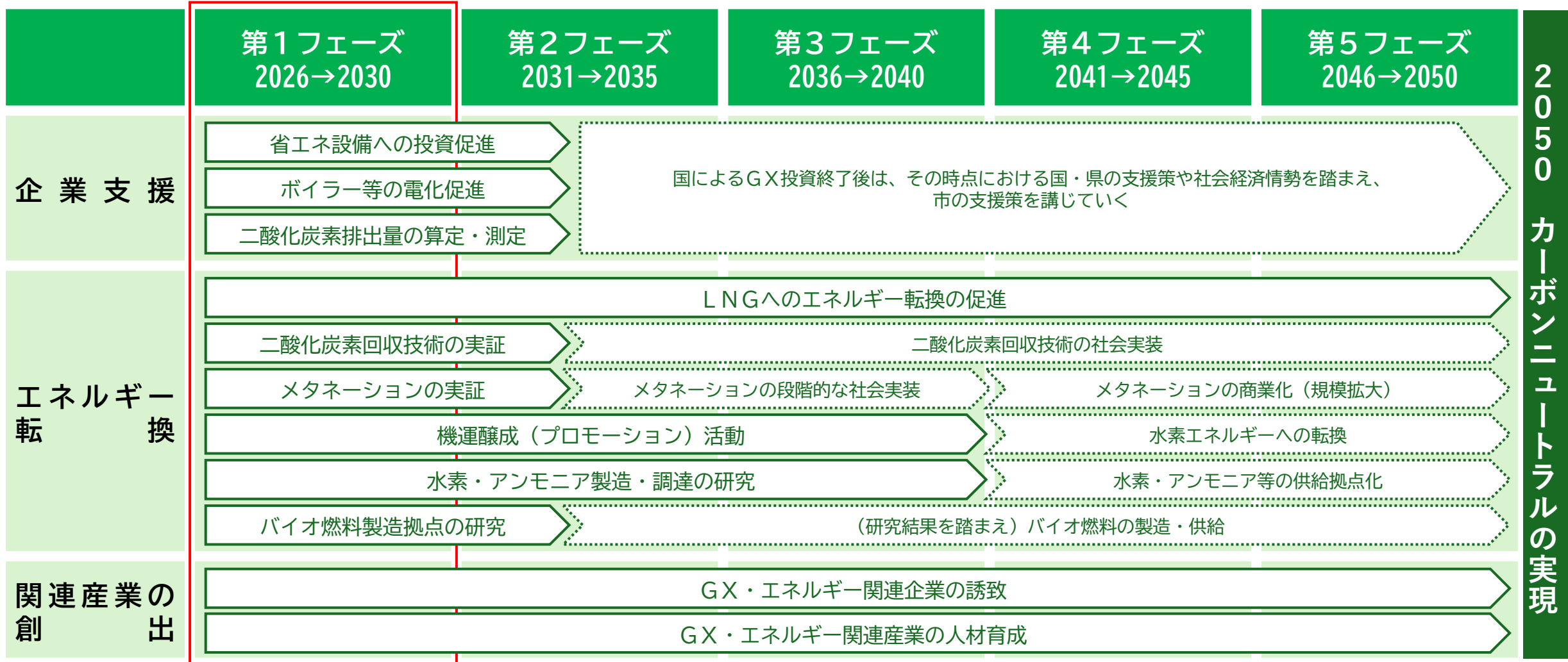


# ■ 今後の予定

令和8年度  
事業内容  
(案)

- ➔ 長期ロードマップ(第1フェーズ：赤枠部分)の具体的なプロジェクトをまとめたアクションプランを策定する。
- ➔ ビジョン実現に向けた各プロジェクトを主体的に推進する官民連携組織を設置する。
- ➔ ビジョンの周知を目的としたプロモーション活動を実施する。

【2050年までの長期ロードマップ】



2050  
カーボンニュートラルの実現